

説明文の読解

基本

7/31 (月)

p.2
5
p.3

(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

春の訪れを知る

春

(2) イ

(3) ア

イ

B

ア

イ・エ (順不同)

a

気温

b

地温

c

日長

○解説○

(1) ①段落の「どうやって……だろうか。」に着目し、問題提起されている内容をつかむ。

(2) 直後の「冬のあとに訪れる」に着目する。

(4) ②段落に、「着実に高まってゆく気温が、何にもまして春の予告となることは確かである。」とあるが、③段落では、「けれど、気温というものはあまりたよりになる指標(めじるし)ではない。」と述べたうえで、「地温はずっと信頼度が高い」と述べていることに着目する。

(5) Aは、前で述べている「きわめて敏感」であるという内容に、あとの「きわめて一様な反応をしている」という内容を付け加えているので添加(累加)の接続語があてはまる。

(6) ③・④段落は、春の訪れを知る指標としての地温と地温によって春を知る動物の例、⑤・⑦段落は、春の訪れを知る指標としての日長と日長によって春を知る動物の例となっている。

(7) イ ③段落で、「気温というものはあまりたよりになる指標(めじるし)ではない」と述べてはいるが、②段落で「気温が、何にもまして春の予告となることは確か」と述べている。エ「山地や北方」のことは⑤段落にあり、最後の文の「温度だけでなく日長(昼の長さ)も指標として使うものが多い」に着目する。

(8) ②段落、③・④段落、⑤・⑦段落で、それぞれ春の訪れを知る指標として挙げられているものを三つ押さえる。

古文の読解

基本

p.20

①

(1) 父

(2) つどいける

(3) ただ一人にてこれを折れ

(4) ウ

(5) 志を合はする(こと)。

○解説○

① 前の文で「木の枝をたくさん集めて持ってきた」と言い、その枝を一つにして縄で堅く「巻いた」のは、「父」である。

(3) 会話文のあとには原則として、引用を示す「と」があることを覚えておき、文章中に「父……と言ふ」とあるのに着目する。

(4) 前の「力を尽くして折ってみれども」に着目し、これとは逆接の関係の内容になることを読み取る。「かなふ」は、思い通りになる意で、「かなはざりけり」は、思い通りにならなかったという意になることから判断する。

(5) 最後に父が言った言葉に着目する。